

## 平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	火育～火を学び災害時に生き抜く力を育む～実践事業
事業主体 (連絡先)	長野LP協会佐久支部 (佐久市跡部 65-1 佐久地域振興局内 電話0267-63-3450)
事業区分	(4) 安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,200,525 円 (うち支援金 949,000 円)

### 事業内容

- 1 防災と火育の必要性についてのパンフレット作成及び配布  
災害時における「火」の重要性や必要性及び取扱い方法、火の歴史などを載せたパンフレットを作成し、火育に参加する子どもとその保護者に配布した。

- 2 防災意識向上のためのチラシの配布  
昨年度作成した災害時におけるLPガスの利便性、活用方法、災害時における取組みを紹介したチラシを配布した。

- 3 熱気球搭乗体験・佐久平浅間小学校『お仕事ゼミ及びおおぞらまつり』において次の事業を実施

- 火の必要性を学ぶ

災害時における火の必要性を伝える、理解してもらう

- ①被災地においてLPガスが活用された場面のパネルの展示

- ②火を扱う際の注意点 (パンフレットに掲載)

- ③被災地で火がどのように活用されたか、またその重要性を物語にした映像を上映

- LPガスの災害時の有用性を伝える

- ①LPガスの特性をパネルで展示

- ②液体窒素を活用してのガス実験

ガスとはどんなものか液体窒素を使用して体験してもらう

- アルファー米を活用した炊き出し体験

LPガスを活用してのアルファー米での非常時の食事の確保を佐久市赤十字奉仕団及び佐久市社会福祉協議会職員に指導を受けながら体験。

- 火おこし体験

当会火育マイスター (業界認定) による、マッチの擦り方及びヒキリ棒を利用した火おこし体験で安全な火の取り扱い方法を体験

- アンケートの実施

火おこしを体験した親子にアンケートを実施し、火育についての認知度を調査する。



【上:お仕事ゼミ下:火おこし体験】

## 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①防災と火育についてのパンフレットを作成し配布することにより、災害時における「火」の重要性や必要性及び取扱い方法などを子どもたちやその保護者に広く周知することができた。

また、昨年度作成した災害時におけるLPガスの利便性、活用方法のチラシを同時に配布することにより、防災意識の向上を図ることができた。

配布部数 190部

②佐久市日赤奉仕団・佐久市社会福祉協議会と連携してLPガスを活用してのアルファームによる炊き出しを参加者に体験してもらえたことは、災害時避難所等において迅速に食べ物が調理できる方法が習得できた。

③災害時における「火」の重要性、必要性を映像で見せることにより、子供たちが「火」についての理解を深めることができた。

④火おこし体験をしてもらうことにより、普段火を使うことが少ない参加者に、火をつくることの大変さと必要性を感じてもらうことができた。

## 【目標・ねらい】

- ①「火」の重要性及び必要性を子どもたちに認識してもらい、災害時において、基本的な防災力向上のため「火」をコントロールできる知識や技術を身につけるようにサポートする
- ②教育機関及びPTAに「火育」の必要性と重要性を認識してもらおう
- ③赤十字奉仕団及び社会福祉協議会と連携し事業を実施することによる、災害時の協力関係の構築

## ※自己評価【A】

### 【理由】

「火育」を実施することにより、子どもたちや保護者が火の重要性及び必要性を認識してもらえたことができた。

## 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

本年度は、地域のイベント及び小学校において『火育』を実施し参加した子どもたちやPTA、教育機関、市役所等に「火」を活用することの重要性や必要性を強く認識してもらうことが出来た。

今後はこの事業をさらに広め継続させていくために、引き続き教育機関や市役所と連携をとりながら『火育』を実施していきたい。

また、基本的な防災力を高めていくために、今年度実施した『火育』をさらに充実したプログラムへと発展させ、災害時において正しく火が使いこなせるスキルを身につけ、生き抜く力が育むように取り組む。また災害時にLPガスが有効なエネルギーであることもわかるような内容にもしていきたい。このプログラムには親子で参加してもらい、幅広い世代がこの機会に「火」について学んでもらうことにより防災についても考える機会にしたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある